



高崎中学校だより

生徒が生き生きと活躍する「生徒が主役の高中」



高崎の未来を考える

12月1日(金)に3年生を対象としたSDGs学習(高崎の未来を考える)を実施しました。

自治公民館長、まちづくり協議会、PTA会長等、20名の地域の方々をお招きし、3年生と高崎の未来について考えました。

高崎地区の新生児は、本年度30名を下回ったそうです。近い将来、現在の半分の生徒数になることが考えられます。このことには、地域の方々も大変驚かれていました。互いに危機感をもち、様々な情報を生徒と共有することにより、活発な話し合いとなりました。

ご協力いただいた地域の皆様、ありがとうございました。生徒たちも真剣に高崎の未来について考えることができました。この学びが「未来」につながるように努めていきたいと思えます。



認知症サポーター養成講座(12月12日・火)

12月12日(火)、都城コアカレッジから講師の先生をお招きして、認知症サポーター養成講座を実施しました。

認知症についての理解を深め、高齢者を支える担い手の養成を目的としています。この養成講座は、今後も高崎中2年生の総合的な学習の時間において、継続して取り組んでいきます。

また、この学習を通して、身近な高齢者を大切にする気持ちを育ててほしいと思えます。



教頭の霧島日記

「年の瀬」

12月を表す言葉はいろいろとあります。「師走」、これは僧侶が年末の法事等で忙しいという意味が語源だそうです。その他にも「極月」「限り月」などの言葉もあります。中でも「年の瀬」という言葉は、比較的よく知られた言葉です。

「瀬」は「流れの速い川」を指す言葉です。年の終わりが迫る速さや年末の忙しさを形容する表現として使われます。この言葉から、年の終わりの慌ただしさや過ぎゆく時間の速さを感じることができます。

さて、明日から冬季休業です。家族団らん、日頃会えない親戚との交流など、各家庭でそれぞれの年末年始を過ごした後、3学期、元気な姿で生徒たちに会えることを楽しみにしています。

また、休業中、連絡等が必要な場合は、28日までは、学校までご連絡ください。29日～3日までは、緊急時の場合のみ、教頭の携帯にご連絡ください。

今年もお世話になりました。

コロナウィルス感染症が5類に移行し、学校、地域の活動も以前のような活気が戻ってきた令和5年でした。

PTA活動もミニバレー大会を3年振りに開催したり、愛校作業を2回実施したりと、コロナ禍前のような活動ができるようになってきました。

これも三役の方々をはじめとした保護者の皆様のご協力があったお陰だと感謝しています。

新年は、高校入試があり、3年生にとっては「勝負の年」です。また、2年生は立志式も控えています。

「15の春を笑顔」で迎えるために、来年も教職員一丸となって教育活動を行ってまいります。

どうぞ、来年もよろしく願い申し上げます。



